



〈発行〉  
早大グリーンクラブOB会  
稲門グリーンクラブ  
〈編集〉  
富永 侃(三五)  
頼原 信二 郎  
佐々木 豊  
160新宿区百人町3-8-11  
頼原方03(360)3336  
(毎月1回発行)

OB四連まであと二ヶ月

休眠メンバー諸兄よ、起て!

幹事長 富永 侃(三五)

年初の大阪稲グリ創立三十周年記念演奏会に参加したのが、すてに青葉の候となり、OB四連まであとわずか二ヶ月あまりとなった。その間、定期練習参加者も次第に増えつつあるが、固定メンバーは五十名ぐらいて、現状では四連にオンステ出来るのは大阪のメンバーを加えても、甘くみて七十名程度の「強化合宿」を含めて十回あま

りあるこれからの練習に皆勤すればまだ間に合うと思われるので、休眠メンバー諸兄の参加を切望する。特に、今回は、若手山本正洋君(五七)の稲グリ指揮者としての晴れの初舞台であり、現役時代の彼の指揮で「月下の一群」を歌い、レコーディングをした仲間には是非駆けつけて彼を盛り上げて欲しい。前回のOB四連では、稲グリ

みが暗譜に挑戦し好評を博したが、今回は他三団体も満を持して準備。おさおさ怠りなしと聞いては、クロバークラブは、先達の大メンバーによる「ハワイ遠征」の余勢をかって四連に臨まんとしており、新月会、フグネル両合唱団も、それぞれ意欲的に練習に取り組んでいるとの情報しきりである。福井会長始め、皆の念願である百人オンスステ態勢には非常な困難が予想されるが、これに一步でも近

付けるべく、今一度諸兄の参加を呼びかけたい。なお、前号でお知らせしたように、OB四連に先立って六月七日(日)、熱海での「逍遙祭」に参加するが、岡先輩(二九)のご尽力で楽しい特ステ旅行になりそう。こちらへも諸兄の奮っての参加をお願いする。  
「熱海特ステ」参加申込は  
各バートのパトリハ  
宴会費 三〇〇〇円

「宿泊申込」受け付け開始(OB四連)

OB四連マネ 小俣泰英(三八)  
時二十時の臨時練習があります。また、当日の七月十二日(日)は午前中、朝日放送スタジオにて練習の後会場入りし、本番は十三時十六時打ち上げは新阪急ホテルにて十七時頃からそれぞれ予定してあります。  
大阪での宿泊先は前出の大阪後楽園ホテル(大阪市南区南船場二丁目二二番地)です。熱海後楽園ホテルの社長、岡さん(二九)のご紹介により格安の値段(練習場も無料!)で利用させていただきます。ことになった利用させていただきます。も用意致しました。応援(夫人等)の参加も歓迎です。何卒多数ご利用下さい。五月十二日(火)の定期練習日から参加(兼ホテル利用)申込書を集めたいと思います。よろしくご協力下さい。

第6回OB四連までの活動日程 ★=臨時練習

- 5月12日(火) 定期練習 東湊練習場 18:30~21:00
- 19日(火) " " "
- ★24日(日) 臨時練習 学生の家 13:00~18:00
- 26日(火) 定期練習 " " "
- ★30日(土) 臨時練習 奉仕園 15:00~19:00
- 31日(日) 校友女声合唱団第5回演奏会  
こまばエミナース 13:30 開演
- 6月2日(火) 定期練習
- 7日(日) 「逍遙祭」特ステ(全日)  
熱海観光会館  
8:15 新宿西口・安田生命前集合  
19:30 熱海後楽園ホテル発(予定)
- 9日(火) 定期練習
- ★13日(土) 臨時練習(予定) 大橋区民会館 18:00~21:00
- 16日(火) 定期練習
- 20日(土) 「現役四連」サントリーホール
- ★21日(日) OB四連「在京メンバー合同練習」  
学生の家 15:30~18:30
- 23日(火) 定期練習
- ★27日(土)~28日(日) 「稲グリ・四連強化合宿」  
河口湖・合唱ロッジ「コニシ」
- 28日(日) OB四連「在阪メンバー合同練習」
- 30日(火) 定期練習
- 7月4日(土) 「大学OG女声合唱団合同演奏会」  
(慶応、聖心、日本女、立教、共立、学習院)サントリーホール
- 7日(火) 定期練習
- ★9日(木) 臨時練習 奉仕園 19:00~21:30
- ★11日(土) " 大阪熱海後楽園ホテル
- 12日(日) 「第6回東西OB四連演奏会」  
ザ・シンフォニーホール

《出席状況》

	4/14	21	28
T <sub>1</sub>	7	9	9
T <sub>2</sub>	10	7	9
B <sub>1</sub>	9	11	13
B <sub>2</sub>	13	12	13
	39	39	44

稲グリ・合宿情報II

村長 児玉康夫(三八)

既に知らせしたように、今回四連強化合宿は河口湖町のロッジ「コニシ」で六月二十七日(土)から二十八日(日)にかけて行います。これまでのように「お泊り」へ行かないようにも気をつけたい。マイカーの方は、河口湖イン国道一三九号線を約五キロ行き、左右に「太洋ゴルフコース」の看板が見えたら徐行して、「メゾン・ド・404」(スナック)の所で左折して下さい。砂利道を行くと一分以内で左側が合宿所です。これは以外、相乗り族でない諸兄は、JR東日本鉄道中央高速バス「河口湖駅下車」タクシーに「ろっち」に「二二」と言えば、前出のスナックまで千二百円位です。尚、湖畔に民宿「小西屋荘」があり、湖に面して、所要時間はいくらでも差がないと思えます。河川松林の中、道から少し奥に河口湖とも一切無縁の場所なので、四面のテニスコートには、目の前に湖と松林が並び、暗譜に専念するの最適と思われ、若手諸氏の参加も、今年以降は松尾女史の参加も、特定期待し、若手諸氏の参加も、再会を楽しみにして、彼女の方で、消されるかも知れませんが、喉のお持ち等、常備薬は、お多願し、お持ち下さい。以下次号へ

### 一人ひとりパトリ!

T<sub>1</sub>パトリ 奈良原秀三(三六)

今年も銀婚式、五十歳台に突入する。昭和三十七年、二十五歳で結婚した当時、二十五年先に五十歳になり、銀婚式を迎える年の計算などしてもみなかつた。この十年は住宅ローンに追いかけられてきた所為か、大変なハイペースで時が流れた。その間、二人の娘は可愛く成長してくれ、妻もたくましく太ってくれた。感謝している。仕事柄、土地柄、何とか都合をつけて稲グリに出る。……有難く思う。ローン、塾、受験、学資、それに絶対にハミ出ることのできない(ハミ出せば自滅の)管理社会で頑張っている、歌なんか歌っている場合じゃない企業戦士諸君に申し訳なく思う。

ところで、指揮者のマツキ君よ。申し訳ないが僕はパートリーダーなんかじゃない。リーダーはトップテノールメンバ一人ひとりがある。僕が能書きを並べて、聞き耳を立てるヒマ人は早稲田のトップには一人もない。自称ドミンゴ、パパロッティ、古いところでカール・シー、タリ、タリ、タリ、モナコにステファノまでいるじゃないか。ご苦労だがどうか安心して振ってくれたまえ。

### OB四連に向けてー四パトリかく語りき

聞け! 悲鳴を!

T<sub>2</sub>パトリ 土屋信吾(四四)

中岡さん(一二卒)、津田さん(二二)、平井さん(二九)、福井さん(二九)。現在セカンドの主カメンバです。毎週確実に練習に参加され、最前列でガンバツてくれています。その他の主なるメンバは、別格の山本さん(三一)、宇野さん(三二)、田中さん(三四)、長井さん(三五)、遠藤さん(三七)、加藤さん(三七)、関口さん(三七)、伊東さん(四七)、加藤さん(五六)、峰尾さん(五七)たちですが、メンバ数が大いに不足です。最近、全体には順調な参加メンバ数の中で、セカンドだけが何故か増えず、出席メンバは寂しく辛い思いをし勝ちです。

OB四連曲「月下の一群」には、素晴らしい旋律のセカンドパートソロが沢山あり、歌うのが難しいので頭を痛めています。四連の成功のためには、どうしても一人でも多く「セカンドのメンバ」の充実が必要で、先述した四人の大先輩の負担を早く軽くしたいと願っています。お名前を挙げなかった方々の助力をお願いいたします。

前の定演(ロバート・シヨ)のテープによって自分の声を客観的に聴くチャンスを得、そして思わず苦笑してしまった。なるほど、同期の加藤がよく僕のものまねと称して妙な声を出したりするが、全く似ていない事もないなど。だからという訳ではないが、自分の声がどのように他人に思われているか、認識する機会を持つてはどうだろうか。テープに録きつと反省、改良する点があると思う。

「大多数のアマチュアは音楽を創り上げようというより、自己満足の音を鳴らし、帰りに赤提燈で一杯やることを目的に、練習に参加している」(石丸寛氏、日経新聞)。

創り上げる為にはまず、自分の楽器のチェックを。そして直し、手入れをし、皆と合わせる。まだ二ヶ月ある、時間はある。(僕自身の反省を含めて、現役時代のように生意気な書き方をさせて頂きました。)

### 自分の楽器の手入れを!

B<sub>1</sub>パトリ 川窪 洋(五六)

### 果たしてベースは鳴るか

B<sub>2</sub>パトリ 浅井光雄(三五)

OB四連も六回目となると、良い演奏をしたいという対抗意識が芽生えてきたせいか、最近の練習には、幾分、緊張感がみなぎるようになった気がする。

当初、指揮者及び曲目選定から他団体を「アツ!」と言わせた色々と検討したが、結局、手慣れた邦人作品を内容で勝負ということになった。

大人数のPPでは、客席が驚くのはごく当たり前だが、大人数のPPでは、どういう反応をするだろうか。今取り組んでいる「PPと子音」を、必ずやマスターして、名演奏と言われたいものを出したいものだ。

ついでのことには、稲グリのベースも強くアピールしてみたい。太く鈍い低音よりも、鋭く敏感なキレの良い音を、正確な音程で、一本に束ねて響かせると、今年の指揮者は要求が厳しい。ベースの出演予定者は、東京から二十三名、大阪の約七名とて音量的にはまず十分と思えるが、PPのときのベースはあまり存在感がないが、PPのベースは目立つだけに……果たしてベースは鳴るか?乞うご期待。

### 一丁やっつたらうか

「月下の一群」ピアノ伴奏者 阿部 滋(五七)

大変なことになった。「ザ・シンフォニーホール」のステージでピアノを弾くことになった。光栄である。しかし責任の重大さに身の細る(?)思いがする。私自身、ピアノは自己流・独学なので、基礎もへたつたけれどもない。とにかく一所懸命やるだけである。

「月下の一群」を山本と組んでやるのはこれで二度目になる。前回はもう六年も前になるが、送別演奏会での現役としての演奏であった。当時は「やる」ということに対して特別な感慨もなく、「やるのだな」「やらなければ!」という気持ちだけでやっつたような気がする。しかし今回は、これまでに何回かこの曲を聴いて、山本がやると言うのなら積極的にやってみたいという気持ちになってきた。そこへ今回のGOサイン、なんとこれも頑張りたいたいと思っている。

この組曲は叙情的なメロディと美しいハーモニーから成っており、中間に出てくるリズムカルな部分や風刺の効いた部分は如何にもフランスの訳詩だという香りを漂わせ、それでいて男声合唱の持つ重厚感を曲の中に秘めている素晴らしい組曲であると思っている。

私は千葉県の市川の奥地で吹奏楽の指導をしてから出てくるので、練習場に到着するのがどうしても七時を回ってしまうことを申し訳なく思っている。練習場の階段をトンと四階まで上がるとパワフルな合唱が聞こえてくる。

「ウーム、さすが稲グリすごいナ、声がちつとも衰えない、それどころかますます力強くなっている。でも待てよ、ここはユニゾンのはず、なんてハモッているのか

ナ?おや、低音が変ですわ、楽譜にあんな音あったか?テナーはピンピンだナ、これだけの声が出る合唱団は他にはないだろうナ、ウン、でもなんて上ずっているのかナ?全体的に何か重たい感じがするナ、ムニヤムニヤ……」

これは練習場の前に立った時の感想の一場面である。

合唱は、とかく言葉の中だけでもがき苦しんでいて、音楽が本来持つべきメロディ感やリズム感を見失っているのではないかと思われることがよくある。そのため、音程がいい加減でも合っているような積りになっていたり、スタカートであるべきところが鉛の下駄を履いて歩いていたり、テノールになったりしている。前者は楽譜に対する認識の不足であり、他の人の音を聴いていないことによるものだし、後者はアインザッツ(拍頭)が揃わないために生じるバラつきによるものである。

このような例を挙げたらキリがないほど前に座っている色々な粗が見えてくる。自分のピアノの技量も考えず勝手なことばかり書いたが、他人の欠点はよく見えるものである。その分、自分自身もしつかりせねばと思っている。

五曲の内容に対する私の考え方は紙面の都合で省略するが、要するに、指揮者の意向に添える形で演奏できればよいと思っている。何しろ、どうなるか分からないという不安感と一丁やっつたらうかという山師的欲望感が入り交じって、いま、大きな体の小さな胸は高鳴っているのである。

さあ、成功させるために頑張りゾツと!

# 夢のコンサートチケットを入手!

## 《バイロイト・ワーグナー音楽祭》

「ニュルンベルクのマイスタージンガー」鑑賞の旅ご案内

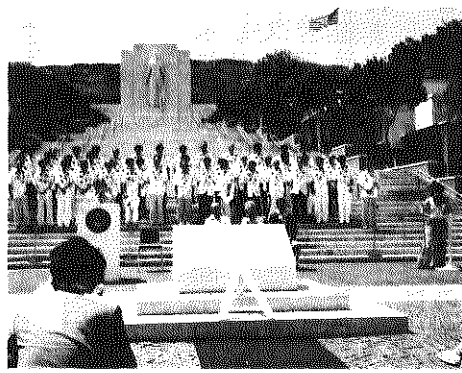
一年前に発売と同時に売り切れ  
てしまう、世界の音楽祭の中でも  
超一流と言われる「バイロイト・  
ワーグナー音楽祭」のコンサート  
チケット付きという滅多に実現し  
ない素晴らしい西ドイツ旅行(今  
年八月十二日から十二日間)の案  
内がT・金子良三さん(三六・東  
京観光)から編集局へありました。  
この企画は金子さんを始め東京観  
光のスタッフが練りに練ったもの  
で、絶対の自信をもってお奨め出  
来るといふことです。一生のうち  
何度もない機会ですので、稲グリ  
諸兄にも是非ご紹介、という次第

です。以下はその旅行案内。  
◇ 旅のスタートは憂愁と甘美の都  
ウイーンから始まります。国立オ  
ペラ劇場「夏のオペレッタ祭」で  
ヨハンシュトラウスの傑作「こう  
もり」を楽しんでいただきます。  
青きドナウ、ウイーンの森の散策  
後、専用バスにて「サウンド・オ  
ブ・ミュージック」の舞台となっ  
たザルツカンマーグートの湖水地  
帯を経てモーツァルトを生んだザ  
ルツブルグへ。モーツァルトは三  
十五年の生涯の大半をこの地で過  
ごしました。ミラベル庭園、ゲト

### クローバークラブ

## ハワイ大学オービス講堂で 「ジョイント・コンサート」

渡米団・広報担当 石田文博(三八)

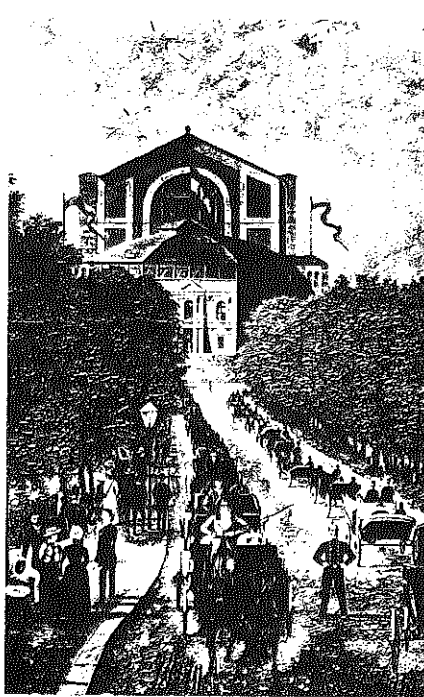


パンチボール国立墓地にて

同志社クローバークラブは、今  
度も姉妹提携している米国・ハワ  
イ大学を訪れ、「ジョイント・コ  
ンサート」を開いた。この演奏旅  
行に参加したのは、オンスステメン  
バーが五十人と、その家族、ファ  
ンの計百人。東京、関西とも半々  
ずつのメンバー構成(団長・津下  
統一郎)。昭和五十六年、両校が  
姉妹盟約を結んで、親善友好に一  
役かおうと、五十八年に初交流を  
実施、好評を得て今回、四年ぶり  
二度目の交歓コンサートとなった。

一行は四月二十八日、日本を出  
発。ホノルル到着後、地元ラジオ  
放送局(KIIZOO)で「夕焼け  
こやけ」など懐かしい日本の歌を  
実況放送、演奏会日程PR付。午  
後にはパンチボール国立墓地を訪  
れ、献花の後、鎮魂歌「レクイエ  
ム・エテルナム」、「ピアティモ  
ルトウイ(美しい詩)」の二曲を  
心を込めて演奏した。日本の観光  
団(現場ではそう見られた。)が  
献花の上、歌まで歌ってくれたと  
いたく感激される。  
翌二十九日午後、米国第二とい  
われるアラモアナ・ショッピング  
センターのホールで「本番」のた  
めのデモコンサート。「最上川舟  
歌」「音戸の舟歌」「別れの磯千  
鳥」など日本の歌で日系一世の一  
団から、溢れる涙で歓迎される。  
夜には、四国の高知城を型どった  
マキキ教会での「礼拝と音楽の夕

### BAYREUTH 1987



ライデ通り観光など。  
やがて国境を越え、ドイツバイ  
エルン州都ミュンヘンへ。市の  
守護神・聖処女像でシンボライズ  
されるマリエン広場やニンフェン  
ブルグ城、五千席もあるピアホー  
ル、ホフプロイハウスのミュンヘ  
ンビールで乾杯。また、ロマンチ  
ック街道南端フュッセンにて夢の  
城ノイシュバンシュタイン城観光。  
森鷗外「うたかたの記」にあるバ  
イエルン王・ルートビッヒ二世を

偲んでいただきます。  
その後、ドイツの誇るアウトバ  
インで中世の面影濃い最も美しい  
街、ニュルンベルクで旧市街、画  
家デューラーの家、中央広場など  
観光。翌日、楽聖ワーグナーが理  
想の演奏・上演の地として選んだ  
バイロイトへ。  
一八七六年以来毎年一回、世界  
中から粒よりの音楽ファンを集め  
て開催されるワーグナー音楽祭で  
「ニュルンベルクのマイスタージ

ンガー」を最高のお席で鑑賞。百  
十年の歴史と伝統を誇る祝祭歌劇  
場には、この期間世界のファッシ  
ョンが集うときえいわれていま  
す。バスはさらにロマンチック街道  
の真珠ローテンブルク観光後、古  
城と大学の街ハイデルベルクへ。  
日本人にもオペラ「学生王子」で  
よく知られた「アルトハイデルベ  
ルク」の舞台です。  
旅のフィナーレはライン下り。  
ラインワインの一大集積地リユー  
デスハイムから観光船で両岸に広  
がるブドウ畑、歴史を刻む丘の上  
の古城の数々、「なじかには知らね  
ど心わびて...」情熱の詩人ハイ  
ネの詩によりローレライの曲が船  
内いっばいに流れる頃は伝説の岩  
山を見上げ、深い感動に酔いしれ  
ることでしょう。  
ぼっかりと林の途切れた所に白  
く光る空港フランクフルト、濃い  
緑の森と眼下に見えるラインの流  
れ...。最適のシーズンに、最高  
の音楽祭も楽しめるドイツの旅。  
この素晴らしいチャンスをおなが  
りませんか!

四月二十一日 金子良三記

出発日 八月十二日 (十二日間)  
コース (十二日間)  
東京・ウイーン・ザ  
ルツブルク・ミュン  
ヘン・ニュルンベル  
ク・バイロイト・  
ハイデルベルク・フ  
ランクフルト・東京  
費用 七十四万六〇〇〇円  
募集人員 二十名  
主催 東京観光  
稲グリ担当 金子良三

【ハミダシ情報】篠松次郎さん(五四・富士銀行)、五月十六日付けて大阪より東京へ転勤。大阪稲グリベースの若きエースであった氏の、東京稲グリでの活躍が期待される。

【ハミダシ情報】五月八日、横女を聴いたメンバー約十名は、伊勢佐木町のとある店で、ナ、ナント練習にも来ないで若い女性とカラオケに興じ狂っている松島靖宏氏(仮名・四二)と遭遇した。

# 「モービル児童文化賞」を受賞

渡邊 紫郎賞(一六)

本年度(第二十二回)の「モービル児童文化賞」にモービージャックス(西脇久夫へ三三)、大町正人へ三五、鹿島武臣へ三三、玉田元康へ三二の諸君が選ばれました。

モービル児童文化賞は、絵画・音楽・文学・演劇などの創作・出版・演奏・上演その他の活動で児童文化に大きな貢献をした個人あるいは団体に毎年モービル石油株式会社各社の有識者から推薦された候補を選考の上決定し、賞を贈るものです。

この賞は、児童文化関係のものとしては、有数の権威ある賞です。先年、「ろばの会」(磯部徹、大中恩、中田一次、中田直直の諸先生)の「新しいこどもの歌」の作曲と演奏活動に贈られました。今度、モービージャックスがその

対象になったのは、日頃の子供達への社会・文化活動が認められたものと思ひ、喜んでいきます。特に最近の、心身障害児の詩を歌った「車椅子のおしゃべり」コンサートや自費によるそのレコードの製作、「空とぶうさぎ」(鹿島武臣・草思社刊)の出版などの業績が評価されたものと思われまます。五月十九日に贈呈式があります。五月十九日に贈呈式があります。関係者として招待を受けていますので、出席してモービージャックスの諸君にお祝いを述べるともります。賞金が出ますが、純情な彼等のことですから、また子供たちの為にみんな使ってしまうこととして。これからも元気で活躍してほしいと願っています。

# 新生ワセグリ、輝ける「一日」

## 第三十六回東京六連を聴く

現役担当マネ 佐々木 豊(五九)

去る二月の送別演奏会での「シベリウス男声合唱曲集」が、予想を遥かに上回って良かったので、あの感激をもう一度と風薫る週末の五月九日、今評判のサントリホールへ足を運んだ。

田の大先輩・関屋晋氏を六連の指揮台に迎えた。曲目はリヒャルト・シュトラウスの「ディー・タール・ゲスツァイトン」。奇しくも、福永氏が初めて振った現役グリーの定演でメインステージにオリジナルのオーケストラ版で演奏され、後に四連で同志社グリーがピアノ二台、ホルン、ティンパニーを伴奏陣に配して演奏した曲。晴れば

# ワセグリ、バレーボールで優勝!

## 《六連スポーツ大会》

OB担当マネ 西沢知彦(三年)

去る四月十九日(日)、立教大運動場で第一回「東京六大学合唱連盟スポーツ大会」が全校勢ぞろいして盛大に催された。他校が三年生以下の有志参加の中、強腕サブ六連マネ・木鋪君の「全員必修!」の掛け声によって、我がワセグリは、ナ、ナント四年生を中心に精鋭を選び、勇躍、ソフトボール、バレーボール、バスケットボールの各試合に臨んだが、左表のような結果に終わった。

ハバレー①早稲田②明治③立教  
ハバスケ①慶応②明治③法政  
ハソフト①東大②明治③立教  
唯一優勝のバレーには、サブ部長・三浦君の「昔取った杵柄アタック」が大きく貢献していること

## 洗練された華麗なステージ

稲グリ指揮者でもある岡本俊久さん(四八)らが指揮をする横浜女声合唱団の第十七回演奏会が、五月八日、神奈川県立音楽堂に満員の客を集めて開かれた。五つのステージはどれも意欲的な意気込みがありありと感ぜられ、さすが、横浜に横浜女声あり!を十分に示していた。会場には、桜楓、桜友のメンバーも顔を見せており、ファン層も広い。今後とも活躍を祈りたい。

## 現役四連の二案内

### 第三十六回・東西四大学合唱演奏会

【日時】六月二十日(土) 昼の部一時開演 夜の部六時開演

【会場】サントリホール

【曲目】「委嘱作品初演」

「縄文ラプソディー」 宗左近/萩久保和明

指揮・黒岩英臣/伴奏・久邇之宜

合同演奏 「ゆうやけの歌」 川崎 洋/湯山 昭

指揮・松尾葉子/伴奏・大島義彰

【チケット】 昼の部 全席当日指定一三〇〇円 十一時三〇分より座席券交換 夜の部S(指定) 一六〇〇円 A(当日指定) 一三〇〇円 四時三〇分より座席券交換

OBの皆様方には良いお席で鑑賞いただけますよう、夜の部のS券確保につきましては最大の努力をいたしますので、どうぞお申し付け下さい。

OB担当マネ 西沢(自宅) 〇四二二一五三三六九二九

早大グリー事務所 〇三二二六〇一五四一七

在室の部員にOBであることをお示しの上、お申し付け下さい。早いほど良いお席が手に入ります。

## 桜友女声合唱団 第五回 演奏会

1987年5月31日(日)PM1:30分開演 全席自由/¥1,000円

### こまばエミナース

井の頭線・駒場東大前西口 新玉川線・池尻大橋 お問合せ/03-409-8277 (佐々木)

